

エス・ティ・エス 本社

エス・ティ・エス(本社豊田市和会町山下38の3、酒井俊則社長、電話0565・21・0624)は、研磨機や自動搬送設備など各種専用機的设计製作などを手掛けている。人手不足が深刻化する中、省力化・省人化につながる設備を提案し、製造現場における課題解決に貢献する。

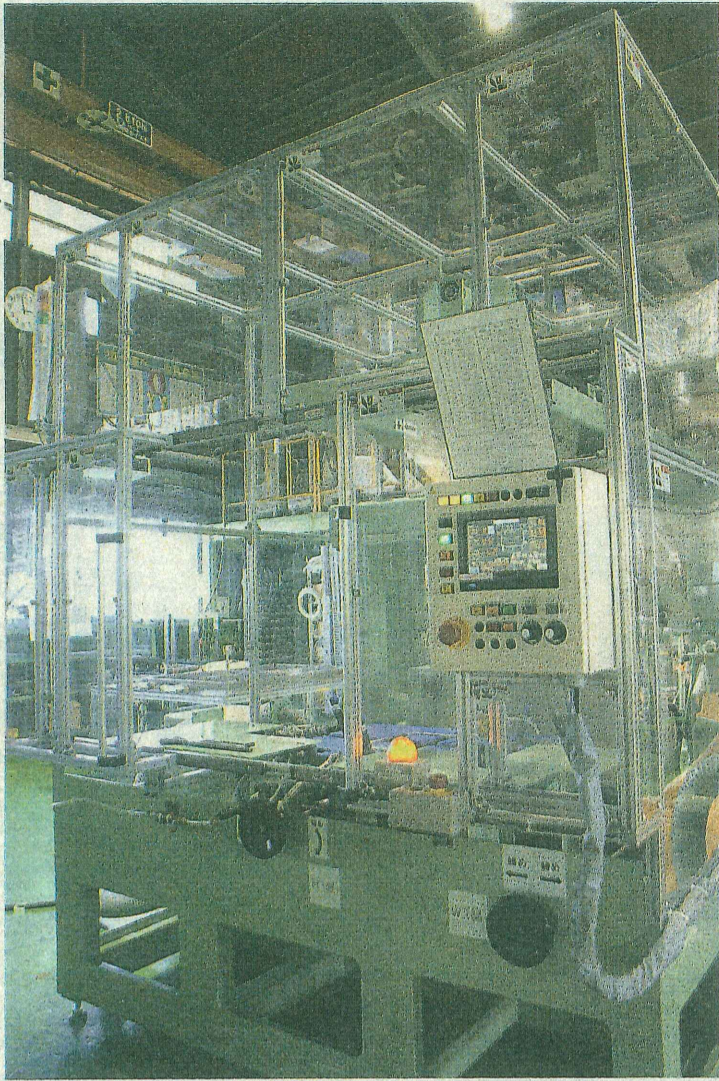
(小山楓)

人手不足解消する設備を提案



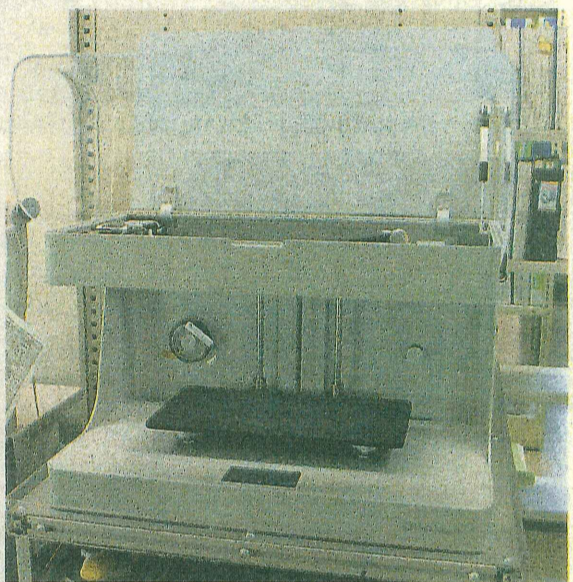
同社は1981年に久和工業として設立。90年に現在の社名に変更した。主に自動車部品メーカー向けに研磨やバリ取りなどの表面仕上げ装置をはじめ、搬送や組み付け、検査装置など幅広い製品を手掛けている。設計から製作まで一貫して自社で行い、顧客のニーズに合わせた

表面仕上げを自動化する機械



製品を提供できることが強みなどを設けている。これまで自動車関連を中心に本社敷地内には、溶接などを手掛けてきたが、電気自動車を行う第一工場、大型の部品を加(EV)の普及によって受注が工する第二工場、組み付け工場 落ち込む懸念もあるため、今後

製造現場の課題解決めざす

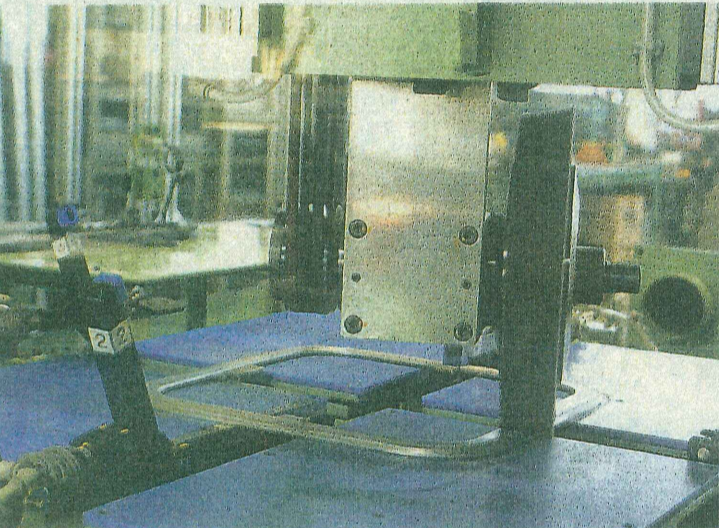


3Dプリンターで部品製作も

自動車関連以外にも開拓



研磨前(右)と後で表面のなめらかさに差が生まれる



自動で丁寧に磨いていく



組付けなどを行う工場

は自動車関連以外の顧客も開拓していきたい考えた。例えば船舶や電車などのサッシを手掛ける企業向けに、これまで手作業で行っていたサッシの表面仕上げを自動化する機械を製作した。人手不足の解消につながるほか、作業者ごとに仕上がりに差がでることを防ぐ。また、作業中は扉を閉めることで表面仕上げの際に粉じんが周囲に飛散しないようになり、作業環境の改善にも貢献する。

さらに、このほど米国製の3Dプリンターを導入した。炭素繊維(カーボンファイバー)材料での造形が可能で、強度が高く、軽量の部品を製作することができる。切削工法より短納期、低価格で提供できることも特徴だ。

酒井社長は「業種を問わず、多くの企業が人手不足などの課題を抱えている。お客さまの要望に応え、省力化・省人化に貢献することができれば」と話している。

名古屋港振興のために

名古屋港管理組合となり、トップである。これまで述べたように名古屋港の振興についても、どこに力点を置くかで、地元の国交省の機関である中部地方整備局三役などの国会議員のもとを訪れ、

助に

さまざまな業界で人手不足が叫ばれて久しい。同社は生産工場の自動化による工場内環境改善に

NAKAMIRISE HOLDINGS

HPはこちらから →

